

戦後80年プレ事業「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」企画案

平和憲法を活かす熊本県民の会代表幹事 高谷和生

1 趣 旨

戦後79年をむかえ、太平洋戦争期の記憶は、次第に消え去りつつある。熊本空襲に関しても、関わる戦時体験者は減少し、一方ではその膨大な証言等は未整理のまま蓄積されるが、これも記憶とともに忘れさられようとしている。

本プロジェクトでは、これらの未整理の資料等を、再度構築しなおすとともに、体験者の新たな記憶を呼びさまし、次代に継承する事業として「空襲写真のカラー化事業 記憶の解凍！」他3事業に取り組みものである。

写真カラー化の先行事例として、新潟県長岡市（長岡市空襲資料館）では、東京大学渡邊教授及び新潟日報社と共同で、戦前から戦後復興期までの白黒写真をAI画像認識と空襲体験者等からの聞き取りによりカラー化する「空襲から復興」事業を展開している。

本事業では関係諸機関等と連携して、戦後80年に向けて「熊本空襲の記憶」を次代に継承していききたい。

※「記憶の解凍」は、東京大学渡邊英徳教授による提言である。

※庭田杏珠・渡邊英徳『AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』光文社新書 2020年

2 戦後80年企画「熊本空襲 記憶の継承プロジェクト」の概要

(1) 空襲写真のカラー化事業「記憶の解凍！」 ※写真1・2

□作業対象は、くまもと戦跡ネット所蔵の米軍撮影「熊本空襲白黒写真20枚」を予定。

第一弾は「4枚」で年度内完成予定。全国で米軍空襲写真に特化したカラー化事業は僅少…

※『空襲下の熊本』『M76焼夷弾と熊本空襲』参照

□本作業の流れと到達点、啓発の姿

①ウェブデザイナーさん等によるAI画像認識による自動色付け

②「活かす会」による「戦争・空襲体験者」による細部の色補正・再現、写真に関わる証言の収集、非体験世代とともにワークショップ「記憶の解凍」による共同作業

③併行し、「くまもと戦跡ネットとの連携調査」による、16ミリカラー映像・スライド写真・ガンカメラ映像、各種刊行物等による客観資料を基とする歴史検証

④カラー化された写真の「記憶の再現」関わる新たな「空襲ストーリーの作成」

⑤諸学校や職域団体、次世代へのカラー化された本カラー化資料の貸出しや展示等

□空襲写真カラー化での作業場の課題や特徴

旧来の低解像度写真、軍カメラ特性、対象物となる複雑な被写体・構造物・町並み等

□その他対象として「くまもと戦跡ネット資料20点」「長崎平和推進協会所蔵資料(約200点)」

□課題…本格稼働での予算化、作業者の確保 他

(2) 空襲資料の新収集事業「現物が語る記憶！」 ※写真3・4

□1945年7月～8月に熊本、宇土・松橋、菊池、玉名地方等へ投下された紙の爆弾「伝単」に関する証言、新たな現物、伝単投下容器等の収集作業

□1945年7月1日「第一回熊本大空襲」での「焼夷弾（現在確認出来ていないE46集束焼夷弾の部品、照明弾、更なるM69小型焼夷弾）に関する証言、現物等の収集作業

□1938年5月20日人吉・球磨・芦北地域への中華民国軍機による「伝単」に関する証言、新たな現物等の収集作業

□会各種活動、展示会等を通し、県民への働きかけとお願い。

(3) 熊本県内での日本側全空襲のデータベース化事業「記憶の記録・集約！」 ※写真5

□本会発行『熊本空襲を語り継ぐ』、熊日『伝えたい私の戦争』、市町村からの刊行史等からの集約作業 ……令和6年9月以降：活かす会・高谷

□熊本空襲戦没者のデータベース化 ……令和6年7月以降：活かす会事務局

(4) 熊本県内各地への米軍側空襲記録のデータベース化「新資料の調査・集約！」 ※写真6

□空襲・戦跡九州ネットワークでの米軍資料のデータ作成作業 ……令和6年9月以降：高谷

3 事業の展開と連携等

□「戦後80年節年事業」での、県内報道各社様との連携

□行政機関・他団体との連携、共同作業 他

4 その他

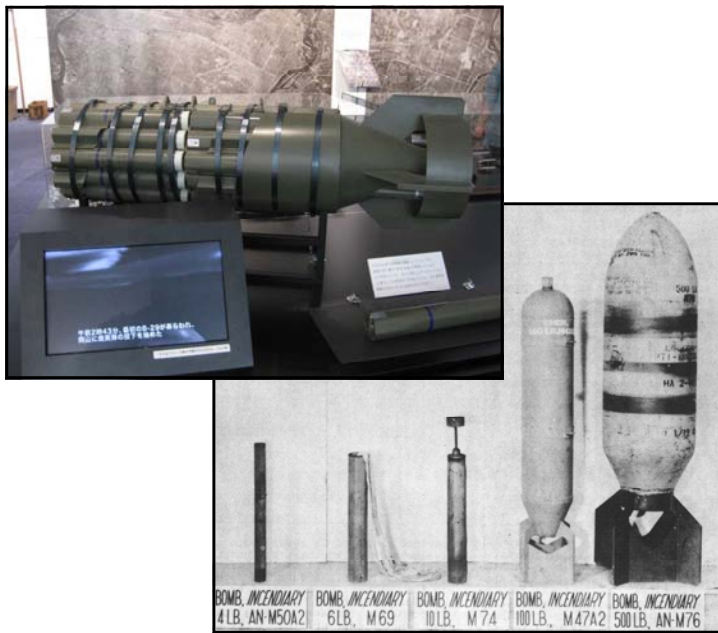


連絡先
平和憲法を活かす熊本県民の会
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷 和生
〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
個人携帯 090-1513-5528
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL http://www.kumamoto-senseki.net/



写真1・2 熊本空襲のカラー化事業

左：AI当初認識写真 中：オリジナル白黒 右：手作業色補正写真



(前ページから続く)

月日	目標	攻撃部隊	時刻	機数	高	爆弾の種類と量	備考
7月5日	大村航空基地	第7航空軍 第41爆撃機群 第47戦隊	13:20-13:21	B-25 12	7400	100F M17A2B136発8"	南九州上陸作戦に備えて、空域での優位性を確保するため九州の飛行場に対する本格的な攻撃が開始された。大村航空基地の分館地区に設置する飛行場に対して焼夷爆弾の優位性のある焼夷弾が使用された。
		第48戦隊	B-25 12	7800	100F M17A2B142発8"		
		第864戦隊	11:16-11:09	B-24 12	10000	125F M1A2PC480発28"	
		第7航空軍 第494爆撃機群 第865戦隊	13:20-13:25	B-24 11	11200	125F M1A2PC440発26"	
		第866戦隊	13:04-13:24	B-24 11	8400	125F M1A2PC410発24"	
		第867戦隊	13:20-13:22	B-24 12	9100	10510 125F M1A2PC480発28"	
7月9日	大村航空基地	第7航空軍 第318戦闘機群 第19戦隊	13:10-13:20	P-47 8	9000	5F Mk28発	防空網に対してロケット弾で攻撃、機銃掃射も行った。
		第7航空軍 第413戦闘機群 第34戦闘機群	13:07	P-47 16	9000	Bx56発、機銃掃射(8795発)	
		第864戦隊	11:59-12:00	B-24 8	9250-10000	100F M30GP120発6"、125F M1A2PC196発12"	
		第865戦隊	11:55	B-24 12	9500	125F M1A2PC476発28"	
		第866戦隊	11:56	B-24 12	9000	125F M1A2PC180発28"	
		第867戦隊	11:56-11:57	B-24 11	9000	125F M1A2PC440発26"	
7月30日	大村航空基地	第7航空軍 第318戦闘機群 第333戦隊	10:45-11:10	P-47 14	12000	500F M64CP4発4"	主任務(A-26の護衛)の後、機銃掃射と攻撃。
		第7航空軍 第41爆撃機群 第396戦隊	11:00	B-25 9	9000	125F M1A1C108発6"	
		第320戦隊	B-25 9	8000	125F M1A1C108発5"		
		第437戦隊	A-26 7	20F M41B504発2"	分館地区に設置する飛行場を焼夷弾で攻撃。		
		第7航空軍 第319爆撃機群 第438戦隊	10:45-11:10	A-26 8		9500	
		第439戦隊	A-26 12	11500	20F M41B6"	目標に到達した35機のうち31機が大村に攻撃	

※爆弾の種類 CP:通常爆弾 即:焼夷弾 IC:集束焼夷弾 FC:焼夷爆弾 6x:ロケット弾

上の表は、アメリカの戦略爆撃調査団が戦後にまとめたB-29部隊、をもとに、B-29部隊の作戦任務報告書や戦機隊の戦報報告書など輸送航空軍、海軍の統計資料、
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/4002419>
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/4002420>
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/4002422>
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/4002424>
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8821716>
 をもとに、B-29部隊の作戦任務報告書や戦機隊の戦報報告書などによって日付などの誤りを修正してまとめたものです。
 なお、B-29部隊の統計資料のまとめは、第20航空軍 Attack Data 統計グループ(12人)の成果を活用しました。輸送航空軍の資料は、国史学術院大学経済学部経済史学研究所のもの一部を使用しています。
 作業参加者: 外川洋、織田英樹、工藤洋三、永益 宗孝

写真3：左上 熊本空襲で投下された「伝単二種」熊日蔵

写真4：左下 E46集束焼夷弾と各種焼夷弾

写真5：右上 新たな熊本空襲証言者「中野喜重子さん」

写真6：右下 大村空襲での米軍空襲記録一覧(2022年)

第8回空襲・被災・戦争遺跡を考える
九州・山口地区交流会報告集

発行年月日 2022年(令和4年)3月11日
 発行所 空襲・被災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会
 実行委員会
 〒745-0121 山口県周南市須々万 280-3
 工藤洋三(e-mail: ykudo@bronze.ocn.ne.jp)
 印刷 大村印刷株式会社(山口県防府市)